

進捗状況の概要

本事業は、比治山大学・比治山大学短期大学部の共同申請により、学生の生涯学び続ける学修意欲の向上と知識・技能の定着、及び地域社会に貢献する力を育むことを目的として、「『比治山型アクティブ・ラーニング』の構築と実践」（テーマⅠ）と「評価指標モデルの構築と学修成果の可視化」（テーマⅡ）とを複合・融合させて行う。いずれの取組も、本学での学びの充実感・成就感を実感させるものである。

平成 26 年度を準備段階とした上で、平成 27 年度は実施第一段階と位置付けて、二つのテーマの主旨に基づいて、主として次のことを行った。

テーマⅠ「比治山型アクティブ・ラーニング」の構築と実践については、平成 27 年 3 月の教職員合同研修会で「比治山型アクティブ・ラーニング」キックオフを行い、周知徹底するとともに、「4×3の比治山力」を組織的な教育目標とした「比治山型アクティブ・ラーニング」についてわかりやすく記述した「4×3の比治山力 学修の手引き 2015」を作成・配付し、学生の主体的・能動的な学びの実現に向けて本事業の取組を本格始動させた。4月から「コア・アクティブ・ラーニング科目群」を中心に、本学にふさわしい身の丈にあった「比治山型アクティブ・ラーニング」を意識した授業を全学的に開始した。「アクティブ・ラーニング推進室」やアクティブ・ラーニング活用型教室、図書館内のラーニング・コモンズ「Me+Library（みらいぶらりい）」等の施設・設備を整備し、授業を支援した。また授業における学生用タブレット PC（iPad）導入の検証を開始した。各学科・コースに 1 名ずつ任命したファカルティ・ディベロッパー（FDer）による授業参観やレッスンスタディの推進、授業コンテンツ編集要員による授業の撮影記録・編集とその公開など、本学におけるアクティブ・ラーニングについての全学的な共通理解・共通認識を深めるとともに、日常的な FD・SD 活動を推進した。本学が主催する「AP セミナー」や他大学との連携による研修会を開催したり、他大学での研修会・セミナーへ参加したりすることによって、「比治山型アクティブ・ラーニング」の取組の充実・発展を図った。

テーマⅡ「評価指標モデルの構築と学修成果の可視化」については、「比治山型アクティブ・ラーニング」の検証のため、本学独自指標として「比治山力レポート」（学生対象）、「4×3の比治山力 リフレクションシート」（教員対象）、「新規採用者のスキルに関する調査」（卒業生就職先対象）の開発を行い、従来からの「学生による授業に関するアンケート調査」（学生対象）等とともに実施し、万全な検証体制を構築しつつある。コンテンツ作成、データ入力・分析、バックアップなどのため、ノートパソコン 4 台を大学・短大共同で活用している。学生自身による学修活動の PDCA サイクルの確立を支援することを目的として、学生情報システム「Hi!way」の再構築を行い、9 月の教職員合同研修会で周知した上で、後期オリエンテーション等で学生にも周知することで、本格的な運用を開始した。以降、学生に対して日常的に「Hi!way」への入力に関する指導を行うとともに、学修成果の可視化をもとに面談等で活用支援を行った。

以上のような活動状況について、教職員合同研修会の機会以外にも、逐次ホームページで発信したり、外部研修会で発表したりするなどして、対外的な情報公開に努めた。また、他大学視察の「示唆報告書」（学内向け）を作成・共有したほか、外部評価委員会を開催して、高等教育・教育評価の有識者、地域の教育・産業を代表する委員からの意見を聴取し共有した。